



野外で活動する際は 虫刺されにご用心!

平成 29 年 8 月 23 日
富山県感染症情報センター
(直 0766-56-5431)
(直 0766-56-8142)

感染症発生動向速報

、平成 29 年第 33 週分・8 月 14 日～8 月 20 日)

●ダニが媒介する感染症

ダニは春から秋にかけて活動が活発になります。ダニがウイルスや細菌などを保有している場合、咬まれた人が病気を発症することがあります。

国内では、つつが虫病、日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ライム病、ダニ媒介脳炎(TBE)などの病気があり、重症になると死に至ることもあります(患者発生状況は表参照)。第 32 週現在、SFTS の報告数が、63 人と統計があるここ 5 年間で最も多くなっています。

つつが虫病、日本紅斑熱、ライム病は細菌による感染症で、抗菌薬による治療が可能です。一方、SFTS・TBE はウイルス感染症で、対症療法のみになります。ダニの刺し口があること、発熱・発疹が出現すること(つつが虫病や日本紅斑熱)、関節の痛みを伴いやすいこと(ライム病)等がこれらの病気の特徴ですが、症状だけからこれらの病気を区別することはできません。ダニは県内に広く分布していると考えられます。**野外で活動する際は、ダニに咬まれないための対策が必要です。**以下のことに注意しましょう。

全国の患者発生状況
(第 32 週までの比較)

疾患名	平成29年	平成28年
つつが虫病	102人	89人
日本紅斑熱	153人	113人
SFTS	63人	39人
ライム病	14人	5人
ダニ媒介脳炎	2人	1人

- ①草むらなどに入るときには、肌が露出しないように、長袖、長ズボン、手袋、長靴等を着用しましょう。
- ②服の上や肌の露出部分に、防虫スプレーを噴霧しましょう。
- ③地面や草むらに直に寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりするのはやめましょう。
- ④野外で活動した後は、すぐに入浴し、体や頭をよく洗い、新しい服に着替えましょう。
- ⑤吸着しているダニを無理に引き抜こうとすると、ダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあるので、医療機関で取ってもらいましょう。
- ⑥発熱等の症状が認められた場合は、早めに医療機関を受診し、野山等で活動したことを伝えてください。

《 全数報告の感染症 》

- 二類感染症 結核 4 件 (①第 32 週診断分：70 歳代、男性 ②30 歳代、女性
③④共に 80 歳代、女性)
- 三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2 件 (①60 歳代、男性、O157、VT1、VT2
②70 歳代、女性、O157、VT2)
- 四類感染症 レジオネラ症 3 件 (①40 歳代、男性 ②70 歳代、男性
③80 歳代、女性 ①②③全て肺炎型)
- 五類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 件 (70 歳代、女性)
梅毒 1 件 (30 歳代、男性、無症候)

《 定点報告の感染症 》

今週の県内上位 6 疾患		定点あたりの数		
順位	疾病名	今週	先週	増減
1 位	手足口病	5.14	10.72	↓
2 位	感染性胃腸炎	2.93	4.10	↓
3 位	R S ウイルス感染症	1.62	1.69	↓
4 位	ヘルパンギーナ	0.90	1.59	↓
5 位	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.66	0.90	↓
6 位	クラミジア肺炎	0.40	0.00	↑

○感染症発生動向調査報告状況（平成29年第33週 平成29年8月14日～平成29年8月20日）

分類	疾患	今週報告分（第33週）					累積報告数							
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	
二類感染症	結核	1				2	3	9	6	30	10	55	110	
三類感染症	細菌性赤痢									1		2	3	
	腸管出血性大腸菌感染症					2	2		2	7	1	10	20	
四類感染症	A型肝炎							2				1	3	
	デング熱											3	3	
	レジオネラ症			2		1	3	4		8	1	10	23	
五類感染症	アメーバ赤痢							1				3	4	
	ウイルス性肝炎							1					1	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1					1	2		4		1	7	
	急性脳炎											1	1	
	クロイツフェルト・ヤコブ病											1	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症									2		4	6	
	後天性免疫不全症候群									1		3	4	
	ジアルジア症							2		1			3	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症									1	1		2	4
	侵襲性肺炎球菌感染症							4		3	2	17	26	
	水痘（入院例）											1	1	
	梅毒					1	1	1		4		5	10	
	定点疾病 <small>（下段は定点当たりの患者数を示す）</small>	インフルエンザ				1		1	1,886	1,364	2,453	1,552	3,418	10,673
					0.14		0.02							
RSウイルス感染症		2	3	6	4	32	47	39	27	39	65	445	615	
		0.50	1.00	0.75	1.00	3.20	1.62							
咽頭結膜熱		4	1	1			6	74	25	203	61	155	518	
		1.00	0.33	0.13			0.21							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		6	4	2	1	6	19	113	47	678	230	606	1,674	
		1.50	1.33	0.25	0.25	0.60	0.66							
感染性胃腸炎		32	15	13	2	23	85	1,154	754	1,148	518	2,578	6,152	
		8.00	5.00	1.63	0.50	2.30	2.93							
水痘			1	2		1	4	6	32	75	30	112	255	
			0.33	0.25		0.10	0.14							
手足口病		23	10	41	34	41	149	200	153	942	221	867	2,383	
		5.75	3.33	5.13	8.50	4.10	5.14							
伝染性紅斑										5	1	17	23	
突発性発しん			2	3	1	2	8	36	25	147	57	96	361	
			0.67	0.38	0.25	0.20	0.28							
百日咳										2			2	
ヘルパンギーナ		2	4	14	2	4	26	30	32	159	41	81	343	
		0.50	1.33	1.75	0.50	0.40	0.90							
流行性耳下腺炎			1	1		2	4	152	64	408	77	350	1,051	
			0.33	0.13		0.20	0.14							
急性出血性結膜炎										3	2		5	
流行性角結膜炎				1			1		3	215	18	5	241	
				0.50			0.14							
細菌性髄膜炎								1				1	2	
無菌性髄膜炎								1				3	4	
マイコプラズマ肺炎				1		1	9	2	14	9	16	50		
				1.00		0.20								
クラミジア肺炎	1				1	2	1			1	2	4		
	1.00				1.00	0.40								
感染性胃腸炎（ロタウイルス）							10		15	21	12	58		
インフルエンザによる入院患者（*）						0	54	3	38	107	98	300		

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

*インフルエンザによる入院患者累計報告数は、平成28年第36週（9月6日）～の集計です